

自己評価表

教育方針	1 心身の調和的発達を図り、健康で明るい人間を育てる。 2 地域社会との触れ合いを深め、情操豊かなたくましい人間を育てる。 3 社会生活や家庭生活に必要な態度や能力を養い、勤労を尊ぶ人間を育てる。 4 保護者・児童生徒からの要請に基づいた合理的配慮の提供に努力する。	地域社会の未来を自分らしく生き抜く力の育成 - 瞳輝き、心つながる自己実現を目指して - ① コミュニケーション力 【伝える力(表現力)】自分の気持ちや考えを表現し、伝える力を育む 【感じる力(共感力)】相手の気持ちや思いを肌で感じる感性を育む ② 自己肯定力:達成感を積み重ねることで、自信を育む ③ 挑戦力:自ら主体的に考え行動し、根気強くチャレンジする力を育む ④ 生活力:社会の中で自立して豊かに生きていくための力を育む
------	--	---

領域	評価項目 (マニフェスト関連)	具体的目標	評価 (A~E)	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習指導の充実 (分かる授業)	効果的な教材教具の作成や学習系Wi-Fiを利用した情報通信技術機器(パソコンやタブレット端末等)を活用した授業を推進するとともに、 <u>ホームページ等で積極的に発信する。</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイノートスクールを活用するなど1人1台端末であるiPadを利用した授業を積極的に行った。 ・休業中にはインターネット会議システムを使った朝の会等を実施した。 ・ホームページに新たな動画等の教材の更新は行われなかった。 ・タブレット端末を活用した朝の会や係の仕事、読み聞かせや音楽鑑賞を行い、表出言語のない児童生徒も意欲的に活動に参加した。 ・ふれあい親善大使の活動や交流学習において、ICTを活用した授業や行事を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童生徒が主体的に学べるよう教材の研究や研修を行う。 ・公開授業やホームページを通して、教育機器の効果的な活用状況を発信する。
	専門性の向上 (専門性)	認定講習の受講促進や、特別支援教育に関する研修の積極的な情報提供を通して、専門性向上の機会を確保する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1名が認定講習を受講し、申請手続きをして免許を取得した。 ・校外へ研修に行くことが難しい中、オンラインでの研修を受講したり、校内で事例研究会や実践報告(部別)を実施したりすることで、専門性の向上を図った。 ・外部専門家を活用し、事例に即した話を聞き、専門性向上の機会を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定講習受講を継続して勧め、専門性の向上を目指す。 ・各種研修の内容を校内へ浸透させる機会を設定する。 ・校内の教員の教育実践を見聞させる場を設定して、学校全体で共有することで、各教員のスキル向上を目指す。
生徒指導	生活指導の充実 (挨拶)	個に応じた表現方法を具体的に示し、気持ちのよい挨拶を交わす生活習慣を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、児童生徒の個に応じた挨拶の表現方法を考え、登下校の際に機を捉えて指導した。 ・児童生徒は、学校生活全体の様々な機会を通して、繰り返し挨拶の経験を積むことで、気持ちのよい挨拶を交わす習慣化につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の個に応じた挨拶の表現方法を部で共有し、教職員が一貫性のある挨拶指導を行う。 ・朝の清掃活動など児童生徒の自主的な取組の中で、教師が手本となりながら、自ら挨拶を交わす習慣の育成を図る。
	集団活動の充実 (人間関係)	集団や場の工夫によりコミュニケーションスキルの向上を図る。また、係活動の充実を図り、責任感や自己有用感を高める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策を講じながら、可能な限りの集団活動を実施した。電子黒板の導入により、視覚的な支援がより功を奏し、集団での授業への注目度が上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のコミュニケーションスキルについて周知し、ステップアップしていくように一貫した指導と支援を行う。 ・集団の中での役割を明確にし、自己評価や他者評価を行う。
進路指導	進路指導の充実 (キャリア教育)	進路に関する研修の実施や進路だよりなどの配布を行い、卒業後の生活が見通せる情報提供に努め、ニーズに応じた進路選択、進路実現を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策を講じながら、進路懇談会、就労に関する学習会を開催し、進路に関する情報提供に努めた。 ・進路だよりを発行して、進路に関する知識や理解の啓発を図った。 ・市町の福祉課をはじめ、関係機関と連携し生徒や保護者のニーズに応じた進路指導に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き進路に関する情報提供に努め、希望に応じた進路開拓を行う。
		愛顔(えがお)のえひめ特別支援学校技能検定で、1級取得者数20%以上を目指す。評価基準(A:20%以上、B:18%以上、C:16%以上、D:14%以上、E:14%未満)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1級取得者が25%と目標を大きく上回る結果となった。第16回県検定は新型コロナウイルス感染拡大防止のため見送りとなったが、キャリアトレーニングでの活動の成果が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県検定で1級取得者が増えるように、今年度の減点対象項目に対する対策を講じるとともに、キャリアトレーニングでさらなるレベルアップを図る。
センター的機能	地域のセンター的機能の充実 (センター的機能・共生社会への理解啓発)	特別支援教育コーディネーターを中心に内部人材も活用しながら、外部支援・相談に応じる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策のため、相談支援の体制を大幅に変更した時期があり、相談件数はコロナ禍前の一昨年度の85%程度にとどまっている。 ・相談内容としては、授業見学・体験が多かったが、各部の教員の協力を得ながら実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、今年度の具体的目標に校内の人材育成の内容も盛り込んだ形としたい。再度、内部人材の育成の実践について検討を行う。
		学校行事等の魅力ある活動や、障がいのある児童生徒を支援する具体的な活動の様子をホームページや公開授業などで積極的に情報発信する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部や寄宿舎から児童生徒の活動の様子をホームページに積極的に掲載した。 ・感染症予防対策のため、公開授業は年間を通して中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も日々の活動をホームページに掲載し、本校の教育活動の理念等を発信していく。
学校安全	安全教育の充実 (安全・防災教育)	ヒヤリ・ハット事例の確認や防災マニュアルの見直しを行い、事故の未然防止の意識や対応力を高める。 <u>施設・設備点検を月1回実施する。</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の点検を月1回、遊具等の安全点検を毎学期行い、校内外の危険箇所や要修理箇所を把握し、修理や備品の購入を行った。 ・様々な事態に対応できるよう担当課と連携・協力して緊急時対応マニュアルを見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に关わる要修理箇所について、速やかに対応する。大雨や地震等災害があった後には、入念に安全点検を行い、早期の修繕に努める。 ・教職員が活用しやすいマニュアルになるよう、見直しを継続する。
		自らの命を守る行動が主体的に行えるように、様々な事態を想定し、実践的・現実的な防災訓練を月1回、実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・火災と地震を想定した避難訓練を1回行った。消防署と連携・協力した救出訓練や通路の封鎖など、より現実味のある訓練を実施した。 ・地震や原子力災害を想定した避難訓練(ショート)を計8回実施、児童生徒が身を守る行動を身に付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の災害を想定し、発煙筒の使用や防火扉の作動など、より実践的な訓練を行う。 ・定期的な訓練と併せて、児童生徒の実態や実情に応じた防災教育の機会を設ける。
その他	働きがいのある職場環境の充実 (教職員の働き方)	時間外勤務は、上限を月45時間以内とする。 評価基準(A:100%、B:95%以上、C:90%以上、D:85%以上、E:80%以上)	D	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度4月から11月までの時間外勤務において、上限45時間以内の割合は87.7%である。 ・上限45時間を超えた人数では、4月が最も多く26人であったが、2学期に入り時間外勤務は減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全退勤日やノー残業デーの着実な実施をするとともに、業務分担の適正化を図る。 ・職員会議や職員朝礼、あるいは校務系掲示板における情報の精選を行う。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。